

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774800581		
法人名	医療法人 垣谷会		
事業所名	グループホーム田井城の里(1F)		
所在地	大阪府松原市田井城6-282-2		
自己評価作成日	平成24年6月20日	評価結果市町村受理日	平成24年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田井城という土地柄は、昔より田畑をされている方が多く、地域の方々が助け合って暮らされてこられてました。その中にディサービスひまわりと併設している田井城の里が地域の仲間入りをさせていただき、少しづつ地域の方々と交流をもたせてもらい歩み寄りができる関係も築けてきました。行事やイベントにも声をかけてもらえるようになり、参加させていただいています。地域密着サービスという位置づけに少しづつ近づいてきています。利用者様が自分でされることは見守り、少人数の中で互いに協力し合い、様々な場面で自己決定、自己選択をできる環境で生活を送っていただいています。そのために職員は、利用者様一人一人に寄り添い、家族様、関係者、医療機関との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

土地柄、住民性ともに自然体で接してきた8年余の経験と実績が、医療法人という大きな支えとも相まって、「田井城の里」の地域での存在を大きくしているようだ。スタッフの年齢層も20代から60代と幅広く、開所当時から職員に加え中間層や新しい戦力が利用者の支援に当たっている。医療連携体制の下、終末ケアの経験を活かし総合的にケアの質を高めたいとしている。お互いの経験や未知への挑戦意欲が、「利用者の意志を尊重し、利用者が地域や自然に触れ合いながら、穏やかな共同生活送ることを支援する」とする理念の実践に向けて日々の研鑽と努力が、利用者や家族、地域住民の笑顔として実ることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げているのは、「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活が送れることを目指します」です。朝礼やミーティング時は理念の実践について報告や協議をし合っています。	土地柄、住民性を重んじ、地域と共に利用者の暮らしを支えることを十分に意識し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域の方とあいさつを交わしたり、地域の保育所、幼稚園、小学校の運動会の見学やクリーンキャンペーンへの参加、田井城の里の家庭菜園のお手伝いにも来てくださっています。	併設する通所介護と共通の広範なボランティアとの交流、地元中学生の職場体験の受け入れなど、開設8年余の実績への地域の信頼関係が利用者の日常に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の自治会長、民生委員、市職員とネットワークを築いていき、老人会など集いがある機会になどホームへ気楽に出向いてくださるよう声掛けていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も30回以上にわたり開催し、地域の関係者、家族様が参加くださり積極的な意見交換もすももあり、サービス向上に貢献させていただいています。	開催期、構成員、会議内容ともに概ね順当である。家族の積極的な参加が会議の意義を高めている。一方、地元からの参加者が2名と固定化していることは些か残念である。	推進会議をホームの大きな味方とし、地域の力を更なるサービス向上に活かすために、地域ボランティア代表など幅広い住民参加を促す努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の職員の方には毎回、運営推進会議に参加していただいております。ケアの相談や質問等にもアドバイスいただいております。研修の情報などもお知らせいただいております。	業務等の連絡、連携は十分に行われ、相互に良い関係が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束はしないという理解、周知はしています。日中は開錠し自由に入出りして頂いております。個々の転倒等のリスクを把握し、環境設定をしたうえで利用者様が自由に暮らせるよう配慮しています。	アセスメントをきちんと行い、見守りや寄り添いを密にしたケアにも心的負担を掛けないなど、拘束については十分に理解し、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、更衣時や入浴時など常日頃、利用者様の身体の変化を観察、申し送りや申し送りノート、介護記録に残し職員間にて、情報の共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で制度について学ぶ機会を設けています。必要と考えられる場合の為に利用者様、家族様に説明できるよう勉強会の実施を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ホームの見学や体験入所の枠も設けています。契約内容や方針等も明確に説明し、疑問点にもお答えしています。利用者様をよりよく知るための、バックグラウンドも詳細に記入して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度は、介護計画変更の為に、家族、職員を交え話し合いや意見交換しています。家族会も開催しておりますが、個別に話ができ、今の思いや気持ちなどを聴かせていただいています。	頻繁にある家族の面会時に意見要望を細かく聞いている。また、利用者の状態・状況を説明し、家族の意向と齟齬を来たさないよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の1F2F合同の申し送りや業務連絡ノートなどを活用し、意見し易い職場環境を心掛けています。各職員が事業所を作り上げているという意識を持ってもらうようにしています。	ホームの理念に基づいて協力し合う、まずやってみようの風土が利用者の笑顔につながり、人材の定着に、利用者の安心につながるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を考慮し、正規社員の雇用を計っています。職員の意欲や、やりがいなど意識的に話す機会を設け、向上心を持てるような職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階に応じて、研修機会を与えています。事業所内での勉強会の実施を毎月おこなっています。新人が入った場合は、新人研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しています。認知症研修会等に参加する機会により、お互いのネットワークを築き、情報交換したり、他のグループホームと行き来し合い交流を持っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり、不安な状況で来られている事を十分に理解し、バググラウンドより得た情報から少しずつ会話から始めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後は思いもよらぬ不安や、言い難い事などはでてくるものなので、入居間もない期間はホームより様子を伝え、また、家族が話しやすい環境にて、話しを聞かせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談窓口という立場に立たせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を、要介護者としてみるのではなく、生活を共に送る人として、関わりを持たせて頂いています。年配の方の知恵袋は今の時代にも貴重であり、学ばせていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人、家族、職員を交え日々のご様子や、さり気ない喜怒哀楽と一緒に会話させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへの入所は家族として、隠しておきたいという衝動にかられますが、私たちが認知症を理解していく姿勢を伝え、友人や親族への方の面会を出来るように支援していくようにしています。	併設の通所介護からの馴染みが多く、個々人の状態に応じた対応で関係性を保つよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今までの環境が違ったもの同士が共同生活をされているので、時にはぶつかり合う場面や、分かり合う場面も観られます。職員は、できるだけ口出しせずに見守り、又は互いの代弁役として立ち入る事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族様には運営推進会議に都合が合った場合は参加して下さっています。近所にグループホームのことが知りたいという方がいたので、連れてきましたなど足を運んでくださる家族もおられます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にできない場合など、表情で個々の利用者の思いを感じ取り、耳を傾けています。一人一人の立場に立ち、スタッフ全員が良い方向にもっていけるよう話し合いをし、検討しています。	重度化に伴い思いや意向の発信が困難になるなかで、家族と共いの姿勢で把握したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、家族の方に詳細に話しを聞かせていただいております。又バックグラウンドにて生活歴を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に今出来ることをスタッフが把握し、日々のなか取り組んでいます。スタッフが気づかなかった新たな発見が観られる時もあります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度は、介護計画書変更のため家族、職員を交え話し合いや意見交換をし、介護計画書に反映しています。	申し送りノートを基に、日々の行動記録から変化と継続状況を集積してのカンファレンスを行い、見落としのない介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日記入しています。申し送りノートや、朝の朝礼にて情報の共有、提供をしています。また、スタッフは利用者の個人担当を決めていて、勉強会の中で報告・意見交換等を出し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体介護が重症になると共同生活にも無理が生じてきますが、できる限り慣れ親しんだこの場所で生活できるよう関係者で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、市役所職員、ボランティアの協力のもと、地域との繋がりが増していています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人のため、定期健診や緊急時対応の体制が整っています。また、入所以前からのかかりつけ医にも、家族の協力のもと受診をされています。	従来のかかりつけ医の継続受診希望者もいるが、殆どが経営母体の病院医師をかかりつけ医としている。協力病院の看護師による週1回の健康状態チェックが、異常等の早期発見・治療となり、利用者と家族の安心の柱となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、健康チェックにきていただいております。看護師とも顔馴染みになり日頃の様子も把握していただいております。相談事にも気楽に応じていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期健診にも受診しており、入院した際は毎日の面会や医師、看護師、関係者の方々と、情報交換しています。適切な時期に退院できるよう連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応に関しては、家族、スタッフ、医師、看護師、関係者の方々と共に話し合い、今後の方向性を確認しながら、支援の決定をおこなっています。	比較的早い段階から、重度化対応については家族と話し合って記録している。また、看取りの指針を提示し、ホームやかかりつけ医、家族がその方針を共有している。過去に3例の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成しています。冷静に対応出来るよう取り組んでいる段階です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署の協力を得て、年2回実施と夜間帯の避難訓練も実施しています。地域住民への連絡体制も整えています。非常用の食品・水・物品などもグループホームに準備しています	火災を想定した昼間・夜間の避難訓練については、消防署の協力のもと年2回実施し、近隣住民の協力も得られるよう話し合いはついている。しかし、地震対策(特に夜間)については、当ホームでは具体的な対策は立てられていないようだ。	中型～大型の地震に対しての避難については、火災の場合と違って動き回ることにはかえって危険と思われる。又、近隣住民の協力も得難い。落下物等ホーム内の危険度についての点検と、法人内での防災についての検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に勝手に入室せず、入室前にはノックをし、了解を得ています。他の利用者の前で、失禁状況をいたり、話題をしったりしないよう心掛けています。	介護保険のキーワード「尊厳」を常に念頭に置き、プライドやプライバシーを損ねないケアを心がけている。日常的につい疎かになった場合は、お互いに注意し合うチームワークを育てている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何気ない会話や仕草の中にも、本人からの思いや希望が読み取れる場合もあるので、聞き流さないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活歴をバックグラウンドや本人、家族より聞き入れた情報をもとに、ホームにおいても、その人らしい生活が継続できるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1月半に1度、顔馴染みの訪問美容院に来ていただいています。カットする長さ、毛染めなども本人に決めていただいています。洋服もその日に、何を着るか選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立ち仕事に本人に負担にかからぬ程度で食事の下ごしらえ、盛り付け、配膳下膳、食器洗いなど利用者の力量にあわせ手伝ってもらっています。座って食器拭きなどもしていただきます。	法人の管理栄養士が作成した献立に沿った食材を業者から購入し、各ユニットで利用者の状況に応じて調理している。和やかな雰囲気の中、適切な食事介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食される量や、身体の状態に応じた形態を把握して提供しています。飲み物は食事以外に10時15時に提供したり、希望時や外出、風呂上がり、会話が多きときなど適時にあわせてだしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度、歯科往診に来ていただき口腔ケア・チェックをしていただいています。食後は、歯磨きの声かけや、介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁状態の把握をし、数時間置きに声掛けやトイレ誘導をしています。出来るだけ綿のパンツを利用していただけるよう配慮しています。	排泄チェック表を活かす、利用者固有のサインを見逃さずトイレ誘導を行う、失禁の多い利用者に定期的に声かけをするなど、自立排泄に向けた適切な支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に冷水、おやつに牛乳の提供や、腹部マッサージなど、なるべく自然排泄をうながしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の方には、出来るだけ応え入浴していただいています。希望の出ない利用者には、声を掛けさせられています。入る気分じゃないと断る場合は、無理強いはしません。花風呂などで工夫することもあります。	週2～3回の入浴を支援している。ときに菖蒲湯やゆず湯等を楽しんでもらっている。入浴嫌いの利用者に対しては職員を代えたり、機嫌の良い時に改めて声かけするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は個々に違っている為、夜間不安になる方にはソファにて休んでいただいたり、安心して眠れる支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容についてある程度は把握しています。臨時的に投与された薬は、チェック欄を設け症状の経過観察を実施しています。服用していただくときは本人に確認してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドより利用者が、興味をもたれていたこと、好きだったことなどは把握しています。実際に、編み物や三味線など、過去に楽しまれていたこと、品物・アルバムなど持参して頂き、生活に取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲は希望にそえるよう、支援しています。親戚の方などへ、本人が家に行きたいとの希望があった場合、立ち寄らせて頂いて良いかなど、事前に確認を取らせてもらっています。	季節感を感じてもらい、近隣住民への挨拶も兼ねての散歩は出来る限り支援しているが、ADLの低下や認知症が進んで車イス対応の利用者も増え、毎日の対応は難しくなっている。しかし、家族の協力を得て、十日戒(堺市)、長居公園や移動動物園等への遠出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望が出た場合は、お小遣いを預かっていることを伝え買い物へ付き添うなど利用者の立場で支援しています。また、本人が現金を持っていないと不安な方には家族様と相談の上、所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物など届いた際は、ホームよりお礼の電話を入れます。伝えることが難しい利用者様には職員が代弁しています。利用者が不穏や不安になられた時等は電話をかけさせて頂くこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画や花を飾っています。室温・換気・光線等には、利用者の様子観察をして調整しています。トイレは、汚れがないように心掛けたり芳香剤を置き、不快な臭いが漂われないよう配慮しています。	リビング兼食堂は広くて明るく、2階フロアにはピアノが置いてある。壁面には職員や家族の作成した大きなカレンダーが貼られ、季節感を感じる。大型テレビを囲んだコミュニケーションスペースも広く、仲の良い利用者同士がゆったりくつろげる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせるテーブル席を3席を設置し、廊下奥には一人になれる席も用意しています。、団欒できるスペースとして、玄関先には縁側、フロアより出れる小さい庭の傍にベンチも設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真を居室に置かれたり、床で寝られたいのかベッドを希望されるのか、掛布団や枕も希望を聞き入れ、心地よく過ごしていただけるように環境設定を行っています。	1階の各居室は大きな表札が利用者目線で設置されている。2階の各居室入口には利用者の名前を縫い込んだ暖簾が掛けられ、間違い防止の工夫が見られる。各居室は比較的簡素だが、ベッドやタンスが利用者の好みで配置され、使い慣れた日用品等の持ち込みがあり、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の動線を理解し安全に移動できる環境設定や、居室やトイレ前は、表札や便所と見える位置の張り紙をしています。風呂前には暖簾をかけるなど工夫しています。		